私たちの町に古民家を残す

かつて江戸・東京近郊の農村地域で一般的だった茅葺きの古民家は、農村の都市化とともに減少し、戦後の高度成長期を過ぎると、町中で茅葺き屋根を見ることはごくまれになりました。

古民家には、その地域で継承されてきた建築技術だけでなく、そこで暮らす家族が伝えてきた生活文化がつまっています。そうした古民家が完全に地域から消滅してしまう危機感も高まり、昭和50年代から平成初期にかけて、古民家調査が各地で行われました。そして、現在都内9区では、郷土の歴史や文化を伝える19棟の古民家が文化財に指定され、保存されています。

何代にもわたって住み続けられた古民家。それを受け継いだ各区では、「残そう」という意思、「残したい」という思いとともに、古民家を次の世代に伝えていこうと日々取り組んでいます。

展示会場では、各古民家の概要とともに、古民家を残すための取り組みをご紹介いたします。あわせて古民家建築の見どころもご紹介しております。ごゆっくりとお楽しみください。